

令和6年度 動物愛護週間中央行事（屋内行事）実施結果

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な使用について理解と関心を深めるために設けられており、「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条には国及び地方公共団体はその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないことが定められている。

本会は、本年も東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する動物愛護週間中央事実行委員会のメンバーである主催者構成団体として参画した。

令和6年度動物愛護週間中央行事（屋内行事）は、9月23日（月・休）に「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」をテーマに国立科学博物館（上野本館内・日本館2階 講堂）にて対面開催された。

第1部では、環境省をはじめとした実行委員会構成団体による各コンクールの受賞作品等の紹介がされた。本会は「第36回日本動物児童文学賞」の大賞・優秀賞・奨励賞に入賞した計8作品の紹介及び表彰を行った。

【第36回日本動物児童文学賞 受賞作品】

〈日本動物児童文学大賞〉

「亀吉の瞳」 宮古一加（岩手県）

〈日本動物児童文学優秀賞〉

「キトンブルーの価値」 蜂賀三月（岐阜県）

「クコちゃんと花言葉」 こんどうなつき（北海道）

〈日本動物児童文学奨励賞〉

「通学路のフウタ」 伊東葎花（茨城県）

「いつか、羽ばたく日まで」 佐鳥 理（東京都）

「翼よ飛べ！ どこまでも高く」 こばやし きよ（群馬県）

「ヤドカリのいた夏」 加藤りょうこ（東京都）

「ごんたものがたり」 三輪円香（千葉県）

表彰式では、本年度大賞受賞者である宮古一加氏に、植田明浩自然環境局長から環境大臣賞が、本会蔵内会長代理の栗本副会長から日本動物児童文学大賞の賞状が、森本耕造損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部第二課長から副賞がそれぞれ授与された。



図1 日本動物児童文学賞受賞者記念撮影風景

後列：左から損害保険ジャパン(株)団体・公務開発部第二課 森本耕造課長、アニコム損害保険(株)給付管理部 鈴木奈津代課長、栗本副会長、環境省 植田明浩自然環境局長
前列：左から優秀賞 蜂賀三月氏、大賞 宮古一加氏、優秀賞 こんどうなつき氏

続いて、優秀賞受賞者である蜂賀三月氏に栗本副会長から日本動物児童文学優秀賞の賞状が、鈴木奈津代アニコム損害保険株式会社 給付管理部課長から副賞が授与された。

さらに、優秀賞受賞者であるこんどうなつき氏に栗本副会長から日本動物児童文学優秀賞の賞状が、森本耕造損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部第二課長から副賞が授与された。

続いて第2部では、シンポジウム「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」動物愛護週間特別授業「もっと知ろう！ちゃんと考えよう！ どうぶつのコト」が平井潤子東京都獣医師会事務局長の進行により行われた。内容は以下のとおり。

【特別授業】

〈1 時間目〉

「身近な生きものと一緒に」

講師：鷺見辰美氏（筑波大学附属小学校主幹教諭）

〈2 時間目〉

「動物園ってどんなところ？」

講師：村田浩一氏

（よこはま動物園ズーラシア園長／
公益社団法人 日本動物園水族館協会会長）

〈3 時間目〉

「せたさん物語」

講師：大塚 晃氏（川崎市動物愛護センター）

〈4 時間目〉

「小笠原の猫たちを知ってるかい？」

講師：中川清志氏（東京都獣医師会副会長）



図2 動物愛護週間特別授業
「もっと知ろう！ちゃんと考えよう！ どうぶつのコト」の様子